




## 審査結果の要旨

報告番号	乙 第 <b>2854</b> 号	氏名	佐藤 祐佳
審査担当者	主査	渡邊 浩 	
	副主査	豊増 功次 	
	副主査	角間 辰之 	
主論文題目：			
鳥インフルエンザに対する地域住民と養鶏農家のリスク認知の違い			

### 審査結果の要旨（意見）

感染症に対する集団のリスク認知について、養鶏農家と地域住民を対象としてリスクイメージなどを用いて取り組んだ研究である。鳥インフルエンザについてはマスコミによる非常にバイアスの入った情報が恣意的な濃淡をもち、それらを含んだリスクイメージで評価されており、感染症拡大を防ぐためにはリスクイメージを改善する教育的介入の重要性を示した研究であり、公衆衛生学的な意義は大きく、学位論文として高く評価できる。



### 論文要旨

本研究では、地域住民・養鶏農家の鳥インフルエンザに対するリスク認知を明らかにすることを目的とした。

方法は、無記名自記式質問紙調査で、地域住民 310/1,000 名（回収率 31.0%）と養鶏農家 198/976 名（回収率 20.3%）に実施した。主な調査項目は、感染症についての認知とリスクイメージである。リスクイメージは、恐ろしさ因子（4 項目、各項目 1 点から 7 点と配点）と未知性因子（4 項目）の平均得点を恐ろしさ因子得点、未知性因子得点として算出した。

調査結果は、感染症の認知では、SARS ( $OR=0.49$   $p=.003$ ) で地域住民は養鶏農家に比べ有意に認知が低かった。感染症のリスクイメージにおいて有意差を認めた変数は、鳥インフルエンザの恐ろしさ因子 ( $\beta=-0.89$   $p<.001$ )、未知性因子 ( $\beta=0.74$   $p<.001$ ) であった。地域住民は鳥インフルエンザに対して、養鶏農家に比べて恐ろしさのイメージが低く、未知性のイメージは高かった。また養鶏農家は、未知性のイメージは低いものの、恐ろしさのイメージが高かった。

このことから、地域住民と養鶏農家の鳥インフルエンザのリスク認知の違いが明らかになった。